

「今月の主な紙面」

2・3 新年号写真コンテスト、
年男・年女

4 核兵器禁止条約発効5周年
読者のひろば、パズル



愛知県民主医療機関連合会

〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町9番3号

☎ 052-883-6997 FAX 052-889-2112

発行責任者 武田 修三

URL : <http://www.aichiminiren.jp/>

E-mail : aichiminiren@aichiminiren.jp

第499号

民医連の事業と経営を守り抜き地域医療の崩壊をなんとしてもくい止めるための緊急行動

国民署名広げる、愛知民医連の各法人



名南会では、職員と友の会と共同で署名活動に取り組みました。

各事業所の外来では署名用紙やアピール動画を設置し、患者さんへの呼びかけをしました。患者さんからは「病院が危ないんだって」

他団体に対しても、病院間で行う会議の中で訴えたり、近隣の社会福祉法人と民主団体へ署名協力の依頼をし、署名を集めてくださったところもありました。

友の会では、ボッチャ大会等の催しの際や各地域懇談会開催時、また訪問行動による署名集め等の取り組みを行いました。

名南診療所 田野 由佳

外来で署名の動画、スタンディング、訪問行動

名南会では、職員と友の会と共同で署名活動に取り組みました。

各事業所の外来では署名用紙やアピール動画を設置し、患者さんへの呼びかけをしました。患者さんからは「病院が危ないんだって」

他団体に対しても、病院間で行う会議の中で訴えたり、近隣の社会福祉法人と民主団体へ署名協力の依頼をし、署名を集めてくださったところもありました。

友の会では、ボッチャ大会等の催しの際や各地域懇談会開催時、また訪問行動による署名集め等の取り組みを行いました。

名南診療所 田野 由佳



みなと医療生協では、社保委員会主催で、毎月第2火曜日に協立総合病院のエントランスで署名の取り組みをすすめると同時に、次の取り組みもしました。

9月13日、街頭宣伝を熱田区の六番町交差点で実施。尾関理事長が「医療環境が

大変な中でも地域の皆さんの健康を守るためにも頑張っていきたい」と訴えました。

12月13日、レインボーセンターで組合員55人、職員10人の計65人で、学習会『一緒に考えませんか？ 今、なぜ医療機関が尋常ならざる危機なのか』を開催。成瀬事業部長を講師に、今のみなと医療生協を取り巻く状況を学びました。組合員からは医療機関の状況が良くなかったとの感想も。署名と同時に出資金を集める提起を、皆で確認しました。

まちづくり支援広報部 高木 史穂

みなと医療生協

毎月第2火曜の署名行動、街頭宣伝、学習会

みなと医療生協では、社保委員会主催で、毎月第2火曜日に協立総合病院のエントランスで署名の取り組みをすすめると同時に、次の取り組みもしました。

9月13日、街頭宣伝を熱田区の六番町交差点で実施。尾関理事長が「医療環境が

大変な中でも地域の皆さんの健康を守るためにも頑張っていきたい」と訴えました。

12月13日、レインボーセンターで組合員55人、職員10人の計65人で、学習会『一緒に考えませんか？ 今、なぜ医療機関が尋常ならざる危機なのか』を開催。成瀬事業部長を講師に、今のみなと医療生協を取り巻く状況を学びました。組合員からは医療機関の状況が良くなかったとの感想も。署名と同時に出資金を集める提起を、皆で確認しました。

まちづくり支援広報部 高木 史穂



北医療生協

病院前署名、学習会、地域訪問、他団体要請

北医療生協は署名目標を4000筆に定めました。

各院所・事業所にポスターの掲示とリーフ・署名用紙を設置し署名を呼びかけると同時に、組合員と一緒に各地域の健康まつりや秋の企画、班会やたまり場・サロンなどにリーフと署名用紙を持って行き、病院・医療機関の危機を訴え署名協力をお願いしました。

組織担当課 池田 理士

診療室にて署名依頼

はみんぐ

待合室・診療室での協力要請、スタンディング

はみんぐ歯科・呼続はみんぐ歯科では、地域医療を守るための請願署名活動に力を入れ、目標1000筆に向け取り組みました。

ポスター掲示や受付・待合室での声かけだけでなく、診療室での患者さんへのお願いなどで、多くの協力をいただきました。職員が「ご協力ありがとうございました。」と感謝の言葉を述べました。

長谷川 みわ



尾張健友会

スタンディング、病院前署名、地域訪問

尾張健友会は、病院近くのバス通りでスタンディングアピールを10月と11月の2回、計44名で行い、通行の方へポスターで訴えました。

11月は3日間、地域訪問を行い署名を呼びかけました。

千秋病院前の署名行動は3回66名が参加し取り組みました。署名集約は79筆でした。

11月は3日間、地域訪問を行い署名を呼びかけました。

千秋病院前の署名行動は3回66名が参加し取り組みました。署名集約は79筆でした。

社会活動部 中井智佳子

尾張健友会

スタンディング、病院前署名、地域訪問

尾張健友会は、病院近くのバス通りでスタンディングアピールを10月と11月の2回、計44名で行い、通行の方へポスターで訴えました。

11月は3日間、地域訪問を行い署名を呼びかけました。

千秋病院前の署名行動は3回66名が参加し取り組みました。署名集約は79筆でした。

11月は3日間、地域訪問を行い署名を呼びかけました。

千秋病院前の署名行動は3回66名が参加し取り組みました。署名集約は79筆でした。

社会活動部 中井智佳子

11月28日には愛知民医連の武田事務局長、愛知県医師連の池田書記次長を講師に学習会を開催し44名が参加。学習会後、北病院前で署名行動を行いました。

12月の年末増資月間でも訪問行動時に署名の協力を呼びかけました。その他に名古屋北法律事務所・めいばく福祉会・新日本婦人の会の支部にも協力を呼びかけ1月13日現在、5,282筆を達成しました。

組織担当課 池田 理士

11月28日には愛知民医連の武田事務局長、愛知県医師連の池田書記次長を講師に学習会を開催し44名が参加。学習会後、北病院前で署名行動を行いました。

12月の年末増資月間でも訪問行動時に署名の協力を呼びかけました。その他に名古屋北法律事務所・めいばく福祉会・新日本婦人の会の支部にも協力を呼びかけ1月13日現在、5,282筆を達成しました。

組織担当課 池田 理士

年末から年初、世界が揺れています。

12月31日イスラエルはガザでの国境なき医師団の活動許可を取り消しました。すでに国連パレスチナ難民救済機関の活動も禁止されており、傷病死の急増が予想されます。まさにジェノサイドです。

1月3日にはベネズエラを米軍が急襲し、大統領夫妻を連行するという国際法無視の事件が起きました。

国内では、民医連の医療機関存続を求める署名が広がり、愛知でも共同組織の方々、民商などの組織でもとりくまれ、県内の病院へのよびかけに名古屋救済会病院から150筆を超える署名が送られてきました。

高市政権も補正予算で医療介護への支援を位置づけており、医療診療報酬は本体3%アップの方向です。

また2026年に介護従事者の処遇改善を柱とする臨時介護報酬改定が行われます。しかし2026年予算には高額医療費上限引きあげ、OTC類似薬の追加負担の導入が盛り込まれていきます。後者は子ども、がん、難病の方は除外としていますが、それ以外の公費医療の方にはとても重い負担となります。国会の予算審議に向けて市民の反対の声を集めていきたいと思います。困った民医連の事業所に相談

た。参加職員は延べ12名。1時間半〜2時間の行動で、日に25軒ほど訪問し面会は9件ほど。9割以上の方が署名にに応じてくださり35筆集約しました。

友の会の皆さんへは、友の会ニュースに署名と一緒に返信用封筒を折り込み、署名を呼びかけました。93名の方に利用いただき、279筆届きました。地域団体への協力呼びかけもこない、17団体へ署名用紙を4600枚手渡しました。

社会活動部 中井智佳子

を」と呼びかけ、地域にくてはならない存在であり続けましょう。

年末に医学部奨学生の合宿があり、協立総合病院中澤副院長、北病院森院長の講演とグループ討論が行われました。私も参加しましたが、「寄り添う医療」について全員が多くの意見をだし、深めました。共通していたのは、患者さんの声をじっくり聴き、一緒に方針を決定する姿勢でした。これは総合診療の基本です。

愛知民医連の各法人でも総合診療プログラムで医師を養成するだけでなく、すべての医師が総合診療マインドをもつことが求められています。これなしには地域住民から信頼され、頼られる医療機関として生き残ることは困難です。また民医連が学習課題としている「ケアの倫理」に深くかわっています。

雑誌「総合診療1月号」に上智大学・小川公代さんの論文「ケアと文学」が収載されています。ドラマ「19番目のカルテ」の場面をひきながら、「言葉が力を発揮するとき」と表現されており、プライマリケア学会のテキストの内容も触れられています。効率、利潤第一の社会よりも、対話と支えあいを重視する社会にしようと思つて世の中に訴え続けることが大切な情勢です。

を」と呼びかけ、地域にくてはならない存在であり続けましょう。

年末に医学部奨学生の合宿があり、協立総合病院中澤副院長、北病院森院長の講演とグループ討論が行われました。私も参加しましたが、「寄り添う医療」について全員が多くの意見をだし、深めました。共通していたのは、患者さんの声をじっくり聴き、一緒に方針を決定する姿勢でした。これは総合診療の基本です。

愛知民医連の各法人でも総合診療プログラムで医師を養成するだけでなく、すべての医師が総合診療マインドをもつことが求められています。これなしには地域住民から信頼され、頼られる医療機関として生き残ることは困難です。また民医連が学習課題としている「ケアの倫理」に深くかわっています。

雑誌「総合診療1月号」に上智大学・小川公代さんの論文「ケアと文学」が収載されています。ドラマ「19番目のカルテ」の場面をひきながら、「言葉が力を発揮するとき」と表現されており、プライマリケア学会のテキストの内容も触れられています。効率、利潤第一の社会よりも、対話と支えあいを重視する社会にしようと思つて世の中に訴え続けることが大切な情勢です。

を」と呼びかけ、地域にくてはならない存在であり続けましょう。

年末に医学部奨学生の合宿があり、協立総合病院中澤副院長、北病院森院長の講演とグループ討論が行われました。私も参加しましたが、「寄り添う医療」について全員が多くの意見をだし、深めました。共通していたのは、患者さんの声をじっくり聴き、一緒に方針を決定する姿勢でした。これは総合診療の基本です。

愛知民医連の各法人でも総合診療プログラムで医師を養成するだけでなく、すべての医師が総合診療マインドをもつことが求められています。これなしには地域住民から信頼され、頼られる医療機関として生き残ることは困難です。また民医連が学習課題としている「ケアの倫理」に深くかわっています。

雑誌「総合診療1月号」に上智大学・小川公代さんの論文「ケアと文学」が収載されています。ドラマ「19番目のカルテ」の場面をひきながら、「言葉が力を発揮するとき」と表現されており、プライマリケア学会のテキストの内容も触れられています。効率、利潤第一の社会よりも、対話と支えあいを重視する社会にしようと思つて世の中に訴え続けることが大切な情勢です。

効率、利潤第一の社会よりも、
対話と支えあいを重視する社会に

愛知民医連会長
堀井清一